

**第3次雲南市総合計画
策定委員会
【第6回】**

基本構想の検討について

2023年10月13日

1 - 6. これまでの総括



キックオフフォーラム（龍谷大学 深尾副学長）

これまで（人口増を前提とする社会）と、これから（人口減少社会）は違う
幸せのかたち、価値観の変化（働き方・暮らし方・教育のあり方の変化）
豊かな環境、資源がある雲南にはチャンス！

市民協働の深化（市民との対話プロセスのデザイン、関係人口の拡大）



総合計画策定委員会でのご意見

挑戦より、みんなで、楽しみながら、幸せに、えすこ（いい具合に）というマインド
市全体で共有できるシンプルでわかりやすいビジョンを
教育、経済循環、自治、自給、総働、生物多様性などがキーワード



市議会でのご意見

人口減少が進む中では、行政施策の効率化（合理的な見直し）も必要

地域の人権対策、周辺部対策は道路や除雪など身近な生活課題への対応が重要

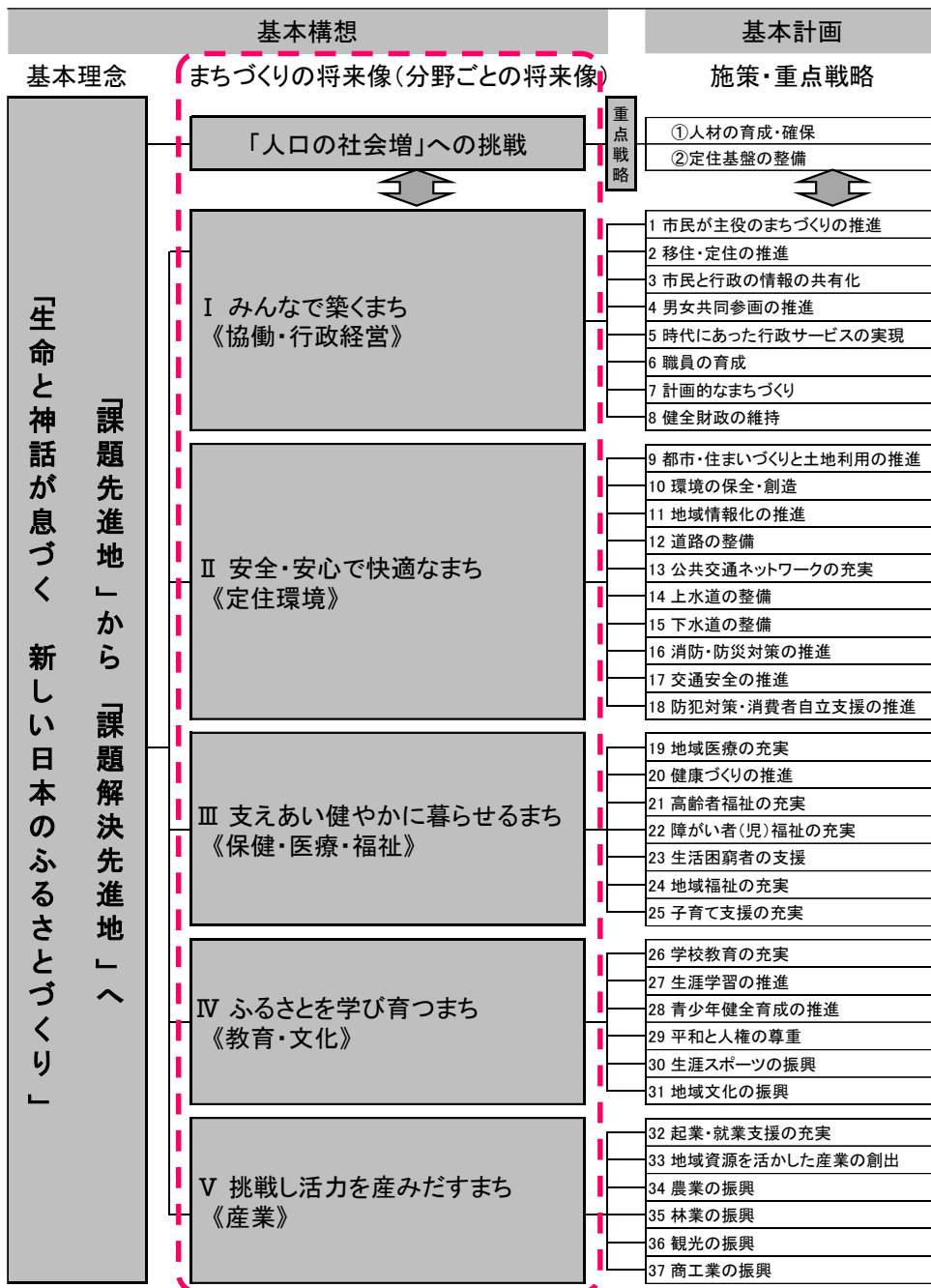
2-1. 基本構想の構成

計画の構成

基本構想、基本計画、実施計画について、現行計画の位置づけを踏まえ、以下のように整理する。

区分	内容	期間	方針（案）	項目（案）
基本構想	雲南市の将来の目標及び目的達成のために必要な施策大綱を示し、まちづくりの基本指針を明らかにするもの。	10年	市民が手に取り、読みたくなるもの。 自分ごととして雲南市の将来を考えたり、行動するきっかけとなるもの。 これまでの歩みを大切にし、新しい未来の創造を促すもの。	<ul style="list-style-type: none"> ● 市のこれまでとこれから ● 基本理念・目指す姿 ● 人口ビジョン ● 土地利用ビジョン ● 基本目標（分野ごとの将来像）
基本計画	基本構想で定めた雲南市の将来像を達成するために必要な施策・事業の基本的な考え方を示すもの。	5年	<p>施策の目的・目指す状態を市民の実感値として言語化。</p> <p>上記の実現に向けた行政として取り組む挑戦と目標値を言語化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 施策の目的 ● 市の挑戦 ● 施策目標 ● 基本事業
実施計画	基本計画で定めた施策を行財政の状況を踏まえてどのように実施していくかを定める年次計画。	1年	<p>政策評価、予算要求等に必要最低限の情報で構成。</p> <p>庁内での情報共有がスムーズに進むよう配慮。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 施策の目的 ● 事業内容 ● 事業目標 ● 事業費 ● 担当部署

2. 基本構想の検討



見直し(案)

①まちづくりの将来像を全体で描く

- ・ これまでは5分野ごとに将来像があり、まちづくり全体の将来像(10年後の姿)が見えづらい。
- ・ 基本構想がめざす将来像を一本化して全体で描くことで、市民にわかりやすく伝えることができる。
- ・ 将来像は、図式化(イラスト化)するなど、わかりやすいデザインを用いる。

②分野ごとに基本目標を定める

- ・ めざす将来像の下に、これを実現するための分野ごとの基本目標を設定する。
- ・ さらに、基本目標を達成するための施策を、基本計画の中に設ける。

見直しの意図

- ・ 行政計画から市民計画へ
 これまでの行政計画として性格を改め、市民とともにまちづくりを進めていくための計画とする。
- ・ ビジョン(めざす姿)の共有を重視
 そのためにも、10年後のめざす姿をわかりやすく示すことを重視する。

2-2. 基本理念の検討

雲南市のこれから

みんなで、えすこに。

一緒に笑顔でやらいこい

なんか、えすこに

みんなでつくる村社会

がっしょでえすこ

お互いさま精神な町。

出逢いが連鎖する場所

挑戦や応援を大切にする

挑戦二割たばこ八割

挑み学び続ける町

チャレンジとてごの町

今日の次を目指すまち

変わり変わらない街。

価値を作り伝える

てごをしますあなたのために

する場所

てばなしてつなげる

子どもが夢見る街

安心、安全、楽しく暮らせる

ゆったり、優しい街

安心な食の街、雲南

安心して寝られるまち

ハハハと笑える街

みんなきらきら雲南市

湿度と笑顔が溢れる町

子どもがお辞儀する町

皆で終活楽しむ街

原風景が残る

やまたのおろち♡

八百万のふるさと

おっちらと広がるまち

無限の雲が彩る街

原風景を感じるまち

日本の原風景が残る街

いつまでも田舎街

☺□

憧れられる

せかいのうなん

雲南市ってどこ？って

のびしろのまち

隣まちが憧れるまち

羨ましがられる市

個人や多様性が尊重される

変人育成と受容

オープンシティー

おいでよ 変人の森

だれもが大切にされ王様の多彩な原っぱ

新しいふるさと

あたらしいふるさと

みらいのふるさと

きぼうのふるさと

みんなのふるさと人口減ならペット推し

生き返った田舎

循環するまち

シンプルイズベスト

2-3. まちづくりの将来像（10年後のめざす姿）の検討

①ここで育ちたい、育てたい

幼稚園から高校までが連携し、地域の特性を活かした魅力ある教育環境を創出。

雲南市全体を校区とし、どこにいても必要な学びが得られる仕組みを整備し、教育移住へとつなげる。

④住民が主体となったまちづくり

地域のデータやノウハウを可視化し共有する仕組みを整備。

地域自主組織を主体とするまちづくりを推進。

③チャレンジ

子ども、大人、企業、地域のチャレンジを支援。

空家、森林などの地域資源を雲南市共有の財産として一元的に管理・運用する仕組みを構築。

企業版ふるさと納税の活用を含め、地域全体でお金の循環を最大化するための仕組みをつくる。

②経済循環創出

雲南市が有する農業生産基盤、森林資源を生かし、食とエネルギーの自給率100%へ。

⑤食とエネルギーの地産地消

2-3. 第5回策定委員会の検討結果

基本理念（大切にしている考え方）や将来像（目指す姿）

●皆で考えましょう

地域を愛する 地域を思う人を育てる
新しい人や意見を受け入れる雲南市

●皆仲良く平和に暮らす

●豊かに美しく

- ・人生を心が豊かに楽しく。
年代ごとに住みやすい環境づくりの実現を目指す。

●なんか○○

- ・なんか○○を中心に、「なんかつながる」「なんか楽しい」など、色々な市民が生活の中で幸せを感じることができるまち

●みんなを想い、てごするまち

- ・てごが世代を超えて循環するまち。農業、教育、子育て、買い物など、てごを必要とする現場で当たり前にてごが受けられるまち。

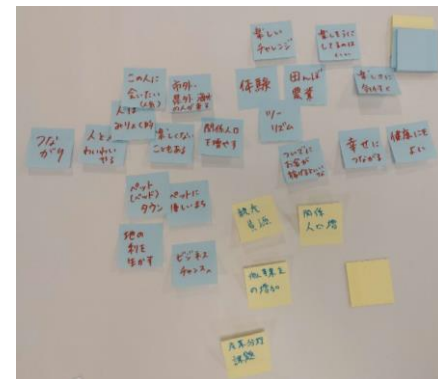
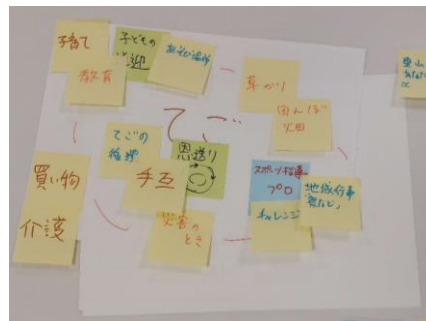
●楽しいを価値に変えるまち

- ・たのチャレ（楽しいチャレンジ）のまち。楽しいところに人・モノ・情報は集まる。楽しいを見つけるところから始め、楽しいと思えないことを変えていく。楽しい人に会いたいと思えるまち。
・ペットにも優しいまち。

●はば広い参加者にわかりやすく大きな字で！！

●暮らしと直結するテーマで

- ・よろこびのつながり。地域、学校、ネット環境、経済、生産（者）などがつながる新しい共助の仕組み。暮らし・生活の向上。



2-4. 構成

0. はじめに	
---------	--

1. 雲南市のこれから	
-------------	--

2. 雲南市のこれまで	
-------------	--

3. 雲南市の誇り	
-----------	--

4. 基本理念 (大切に考える)	
------------------	--

5. 目指す姿	
---------	--

※第6回策定委員会（10月13日）での検討事項

6. 分野別の目標	
-----------	--

7. 人口ビジョン	
-----------	--

8. 土地利用ビジョン	
-------------	--

0. はじめに

「地球上のすべては関係性の中で成り立っている。」

これは雲南市名誉市民として活躍され、本年9月にご逝去された佐藤忠吉さんの言葉です。

私たちが暮らす雲南市も、多くのひと・もの・ことの関係性の中で成り立っています。

私たちは、雲南市に暮らす一人ひとりの市民が、それぞれにとっての良い関係性の中で、自分らしく、幸せを感じられるまちにしたいと考えています。

同時に、私たちは、雲南市民だけでなく、世界中の人や未来に生まれてくる人たちにとっても、良い関係性を結ぶことができるまちにしたいと考えています。

一人ひとりの生き方が、まちをつくり、未来をつくれます。

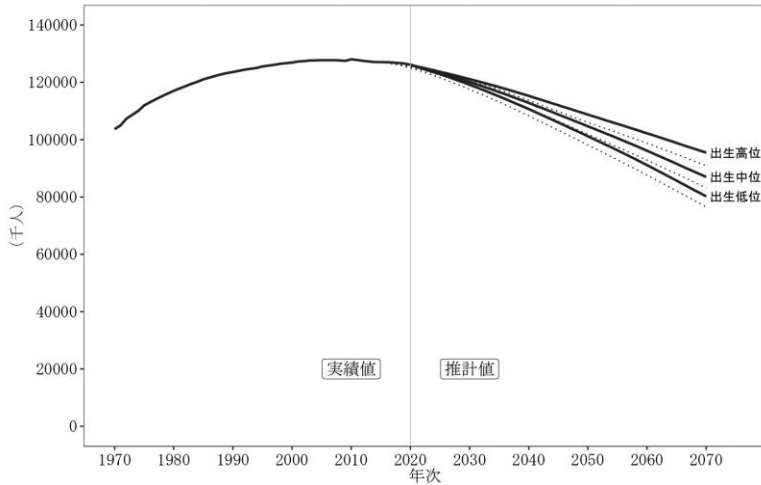
ここから、私から。ともに進めましょう。

1. 雲南市のこれから

2034年。今から10年後の雲南市はどのようなまちになっているでしょうか？

政治、経済、科学、技術、環境、情報など、私たちの暮らしを取巻く様々な分野で多くの変化が起きることが予想されます。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、日本の総人口は令和2（2020）年の1億2,615万人から減少傾向で推移し、出生率の低位仮定の場合、2052年に1億人を割り、2070年には8,024万人になるとされています。



		出生率仮定 [長期の合計特殊出生率]	中位仮定 [1.36]	高位仮定 [1.64]	低位仮定 [1.13]	平成29年推計 中位仮定 [1.44]
		死亡率仮定 [長期の平均寿命]	死亡中位仮定 [男= 85.89 年] [女= 91.94 年]		男=84.56 年 女=91.35 年	
		国際人口移動仮定 [長期の日本人入国超過率]	[2015~19年の平均水準] [2040年に 163,791 人]			[2010~15年の平均水準] [2035年に 69,275 人]
総人口	令和2(2020)年	12,615 万人	12,615 万人	12,615 万人	12,615 万人	12,532 万人
	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	令和27(2045)年	10,880 万人	11,203 万人	10,600 万人	10,642 万人	10,642 万人
	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	令和47(2065)年	9,159 万人	9,885 万人	8,570 万人	8,808 万人	8,808 万人
令和52(2070)年	8,700 万人	9,549 万人	8,024 万人	8,024 万人	[8,323 万人]	

(医療)

認知症に効く薬が一般的に使用されたり、医学の進歩により、人類の寿命が長くなっているかもしれません。

医療技術やIT技術の進展により、自宅に居ながらお医者さんに診てもらえる遠隔診療が当たり前になっているかもしれません。

(環境)

カーボンニュートラルの実現に向け、世界的に再生可能エネルギーの利用が拡大したり、電気自動車やカーシェアリングの普及が進むことが予想されます。

その一方で、地球温暖化の進行による気候変動が進み、異常気象、自然災害の発生リスクが今以上に増大しているかもしれません。

(経済)

バイオ産業の振興、陸上養殖やスマート農業に取り組む事業者が増え、食糧生産のあり方が変わっているかもしれません。

人口減少が進み、空き家や、老朽マンション（築40年以上）の増加が社会問題になっているかもしれません。リニア新幹線が開通し、国内の移動時間が大幅に短縮されているかもしれません。

(情報)

人工知能の活用が今以上に進み、生活の様々な場面で利用されているかもしれません。

メタバースの世界市場は78兆円にまで拡大すると予想されています。現実と仮定の良さを両立したバーチャル・スマート・シティや、アバターを通して授業に参加するバーチャル大学などの取組が当たり前になっているかもしれません。

2. 雲南市のこれまで

雲南市にはヤマタノオロチ伝説で知られる斐伊川が流れ、各地に神話や伝説、神楽などが伝承されており、加茂岩倉遺跡や神原神社古墳をはじめとした多くの遺跡や古墳が発掘されています。

古くから斐伊川の支流周辺の低地では農耕が営まれ、山間地ではたたら製鉄や炭焼きがさかんに行われてきました。

江戸時代から近世にかけては製鉄業で栄え、その中心地である吉田町では、往時の面影を残す貴重な建造物や街並みが残っています。山陰と山陽を結ぶ主要街道上に位置することから、陰陽を結ぶ交通の要衝として栄えてきました。

そして、大東町・加茂町・木次町・三刀屋町・吉田村・掛合町の6町村が合併して平成16年11月1日に誕生しました。

新市の誕生と同時に、新しい雲南市のまちづくりの羅針盤としての「第1次雲南市総合計画」を策定しました。

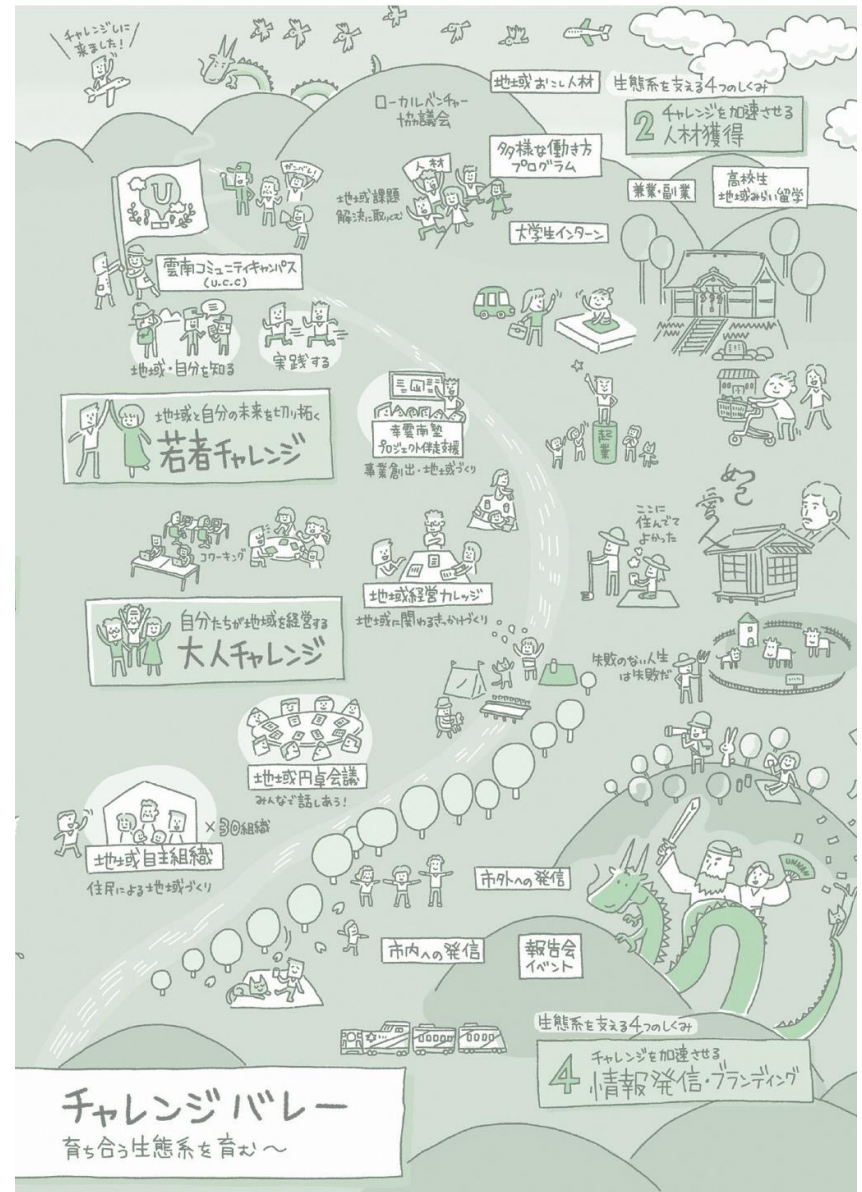
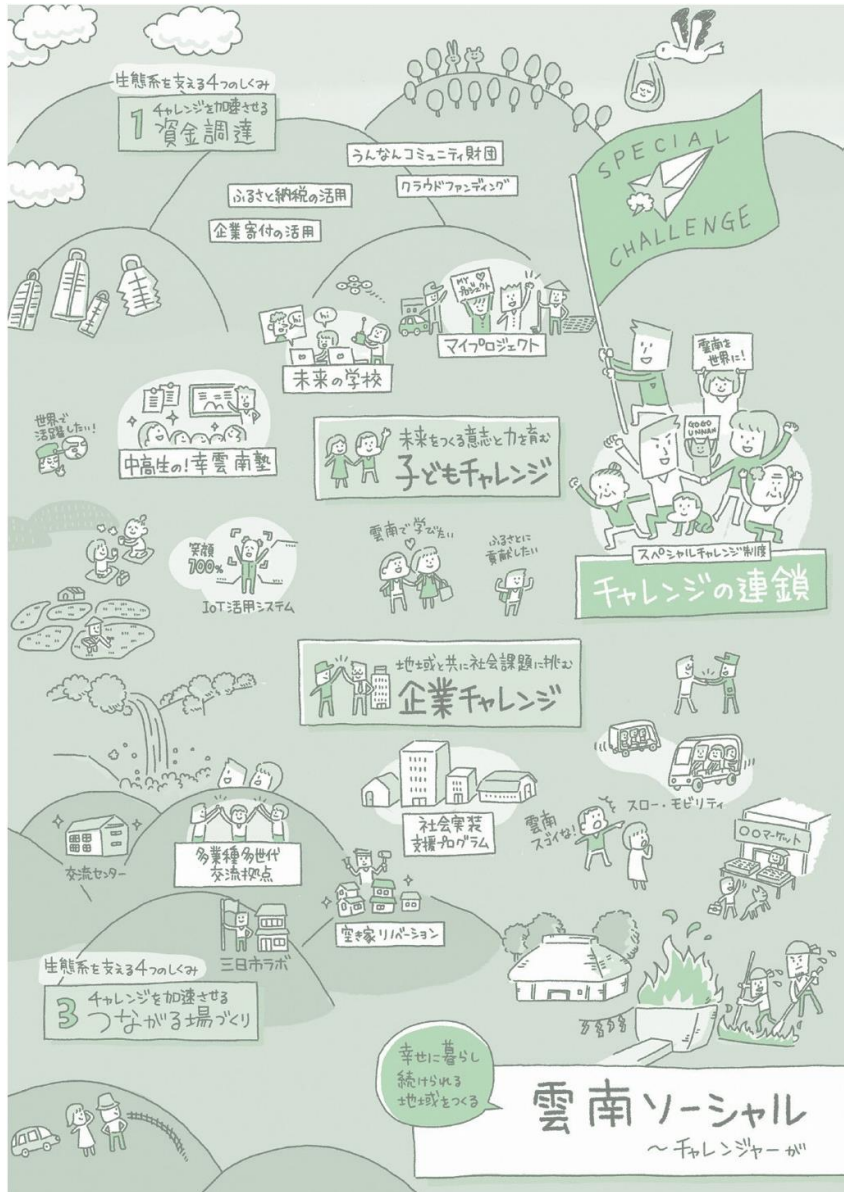
「生命（いのち）と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」をまちづくりの理念に掲げ、ふるさとが継承してきた恵みを、さらに磨き高め、交流を盛んにしていこうとまちづくりに踏み出しました。地域自主組織を単位として、自らの地域は自らの手でよくしていこうとする地域づくりの仕組みが進展しました。

その後、平成27年には、令和6年度までの10年間のまちづくりの目標と方向性を示す「第2次雲南市総合計画」を策定しました。

基本理念である「生命（いのち）と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」に向け、「課題解決先進地」を目指し、「人口の社会増」への挑戦を続けてきました。

そして、ソーシャルチャレンジバレー構想を目指す地域の姿（ビジョン）に掲げ、子どもから大人まで、様々な主体によるチャレンジがつながり、互いに影響し合いながら拡大する、「チャレンジの連鎖」が生まれるまちの実現を目指してきました。

3. 雲南市の誇り



4. 基本理念

今後のまちづくりの旗印として掲げる市民共有の価値観を示す言葉

つながりの中でいきる。つながりの中でつくる。

人と人とのつながり（てご）、人と自然とのつながり（食、エネルギー）、過去から現在へのつながり（神話、たたら文化）、現在から次の世代へのつながり（教育、サステナビリティ）、外とのつながり（人材還流）、つながっている安心感、・・・

いきる＝生きる（えすこ、well-being）、活きる・活かす（チャレンジ）

つくる＝次につなぐ先を育んでいく

5. 将来像

行政言葉ではなく、目指す姿が端的にイメージできる求心力のある言葉

えすこに あえるまち雲南

会える。自分が必要とする機会に出会うことができること。

和える。混ぜるのではなく、食材の特性を引き出し、バランスよく組み合わせること。

人と自然との調和の中、一人ひとりの個性が大切にされ、必要とする機会に出会うことができるまちの実現を目指す。

私の楽しいはきつとつながる 歴史、自然、人がえすこに還流する（めぐる）まち

人は楽しい場所や笑顔に集まる。

私の楽しいが誰かの楽しいにつながるはず。チャレンジに前向きで、寛容で、希望のあるまち。

雲南の歴史や自然や人がえすこに（いい具合に）還流しながら、まちが形作られていく姿の実現を目指す。

日本一チャレンジにやさしいまち

チャレンジは、起業家やスポーツ選手や政治家や特別な誰かのモノではなく、私たちの人生＝生きることそのもの。

私たちは、一人ひとりの違いを認め合い、それぞれの明日に向けた努力をたたえ、応援する寛容で優しさにあふれたまちの実現を目指す。

5. 将来像

目指す姿（アイデア）

移住者から住んで良かった
と感じられるまち
住みたいと思われるまち

雲南から全国の好きな企業で働ける

雲南から（いながら）世界で
活躍する人材がいる

住む家
毎日変えられる

世界を変える
世界が求める
世界最先端のビジネスがある

まちの資源共同管理会社
（空き家、耕作放棄地…）

市長不在

都会の人が暮らして元気になっ
て帰っていくまち

終活地

全市民兼業

ドッグラン天国

くらしが良くなっている実感
・医療
・教育
・インフラ
・福祉
→みえる化

雲南にいたら、
好きなこと
社会貢献
が、お金になるよね～

日本一教育の選択肢が
多い田舎
（社会教育日本一）

留学生、留学に行く人来る人日本一

エネルギーや食の
地産地消

完全自給自足
（エネルギーも！）

多くの人自分ごとに
できるフレーズで

友だち100人できるまち

社会課題解決中の今が
可視化されている

暮らしがよくなっている具合が
データで可視化されて

・経済的な豊かさと
・心の豊かさの両立

・子供が笑顔で行きかう
まち（あいさつできる）
・となり近所が声をかけ
あうまち（つながり）

課題解決中、活動につながっている
人の割合がヒートマップでいつでも
見れる状態になっている

1つのチャレンジを10年は見
守るのがあたりまえ

全市民投資家

つながり→笑顔（しあわせ）
あふれている状態

6. 分野別の目標

①協働・行政経営

②定住環境

③保健・医療・福祉

④教育・文化

⑤産業

7. 人口ビジョン

(別紙)

8. 土地利用ビジョン

